

食品配送から始めるSDGs（東京中央食品株式会社）

取組の概要

① プラスチック袋年間37万枚(約6t)の削減

配送コンテナに使用していたビニール袋をお客様の協力を得て全量廃止。強アルカリ電解水による洗浄で衛生面を担保。

② 配送時の保冷用のドライアイス(年間使用量216t)を全廃 保冷方法をドライアイスから、使い回し可能な高機能保冷剤に変更し、配送品質を上げつつ自社排出のGHG削減を実現

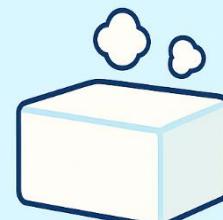
該当する
SDGs目標
(3つまで)



**37万枚の
プラスチック袋**



**216tの
ドライアイス(CO₂)**



東京中央食品(株) × KANAGAWA
SDGs

1年間で削減しました

取組を始めた動機・課題

- 当社は病院・高齢者施設・保育園等のお客様に毎日約100台の車で「食」をご提供する1954年創業の総合食品卸です。
- 衛生的な配送の為のプラスチック袋、保冷の為のドライアイスを創業以来当たり前のように使用していましたが、その環境負荷の大きさに気づき、配送品質は落とさずにSDGsに資する新たな手法の構築に向け、試行錯誤を繰り返しました。

解決に向けた具体策と成果

- プラ袋廃止後も衛生的な配送を行う為、自社工場で生成する安心・安全な強アルカリ電解水での洗浄を取り入れました。
- ドライアイス以上の効果の保冷剤を発見。食品冷凍庫で凍結させる流れを構築し、追加電力等も発生していません。

取組による定量的な効果

- プラスチック袋37万枚(約6t)、ドライアイス216t(※)の削減
※杉の木およそ15,429本分の二酸化炭素年間吸収量に相当

取組のポイント

- 自社の今までの当たり前に疑問の目を向けてカイゼンする
- SDGsは「品質低下」や「我慢」と必ずしもイコールではない